

# 研究実施のお知らせ

2021年2月25日 ver.1.0

## 研究課題名

花粉食物アレルギー症候群の診断における好塩基球活性化試験の有用性に関する  
観察研究

## 研究の対象となる方

2009年6月から2020年12月の間に島根大学医学部附属病院皮膚科を食物アレルギー疑いで受診され、検査を受けられた方

## 研究の目的・意義

花粉症患者の一部は、果物や野菜類摂取時に口腔内のアレルギー症状を示すことがあり、花粉-食物アレルギー症候群（Pollen-Food Allergy Syndrome: PFAS）と呼ばれます。PFASの代表は、シラカバやハンノキなどカバノキ花粉症に伴うリンゴアレルギーで、シラカバまたはハンノキの花粉アレルギーのいずれかがリンゴの類似したアレルギーと交差反応することにより口のイガイガ感や顔の腫れなどの症状を示します。

一般にPFASの診断には花粉および食物のアレルギー特異的IgE検査が行われていますが、これらの検査は感度・特異度が不十分な場合があり、必ずしも正確な診断ができません。PFASを起こす食物アレルギーは不安定なものが多いため、その診断には新鮮な野菜や果物を用いたプリック-プリックテストが有用とされていますが、多種の果物や野菜を常時診療の現場に用意し、患者さんに実施することは容易ではありません。つまり、花粉症の患者さんがどの果物や野菜に対してアレルギー症状起こし、どの果物や野菜は摂取可能であるかを正確に判定することは容易ではないのです。当科では、これまで試験的にPFAS患者さんの血液中の好塩基球（白血球のうちの一つ）を利用して、アレルギーをおこす果物野菜を調査してきました。この研究では、患者さんの血液中の好塩基球を利用した検査法が、PFASにおける診断の役に立つかを判断する目的で、当科でこれまで診察したPFASの患者さんの血液検査の結果をその記録から詳細に調査いたします。

## 研究の方法

研究の対象となる患者さんのカルテより以下の診察記録および検査結果を抽出し、解析をします。

### 【利用する情報】

- 1) 患者情報

- 2) 花粉症（症状の有無、特異的 IgE 値）
- 3) 食物アレルギー（症状の有無、特異的 IgE 値、プリックテスト）
- 4) 好塩基球活性化試験の結果

## 研究の期間

2021 年 4 月～2022 年 12 月

## 研究組織

この研究は島根大学医学部皮膚科学講座が行います。

研究責任者（研究で利用する情報の管理責任者）：

島根大学医学部皮膚科学講座 千貫祐子

## 情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、2021 年 10 月までをお願いいたします。それ以降は解析を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

## 相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：

島根大学医学部皮膚科学講座 千貫祐子

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2210 FAX 0853-21-8317